

アキタ・アルパイン・クラブ (A. A. C)

会長 柳田 勇 悦

事務局 〒011-0936
秋田市濁川字堀尾田1-27
TEL 018-868-6990



(ピッケルとエーデルワイスのバッジ)

1950年(昭和25年)11月12日に当会は創立している。敗戦の混迷と虚脱からまだ醒めきらない暗い雰囲気破るべく、大いに山に登り、我が美しい国土を見直そうではないか、大自然の懐に抱かれて壮んに英気を養い、故郷の山を、日本の山を踏破し、青春のエネルギーを爆発させようではないかということで、とにかく山が大好きだという11人の同志が集まって発足している(創立会員の話)。

「登ることのみに目的を持ち、自然を愛し人を愛する我々の会アキタ・アルパイン・クラブは…」の前文のもとに、2000年11月に50年の歴史を刻んだ。その間秋田県山岳連盟の創立、発展の推進力となり、昭和36年の第16回秋田国体の山岳部門では、クラブの総力を結集し中心的役割を果たし大事業を成功に導いている。創立会員の保坂隆司氏は初代理事長として岳連の基礎作りと国体成功に貢献しており、その後も多くの人材を送り、その時々歴史に貴重な1ページを刻んでいる。

又、クラブ内に於いては、創立当時より太平山地をホームグラウンドとして、信仰登山の山に新コースの開発整備、不婦ノ沢や鶏鳴ノ滝初登攀、県内トップをきっての厳冬期登山、沢の研究に取り組み現在も会員の山として親しんでいる。

昭和26年5月当時まだ極端な物不足の時代、当然装備も不充分で粗末、縦走となると20~30kgは普通という重量を背に秋田駒ヶ岳乳頭の積雪期初縦走を成功させている。昭和33年4月乳頭八幡平初縦走、昭和34年5月には鳥海山北面よりの登頂に成功している。昭和28年に早くも一般募集登山を太平山奥岳で実施し、市民への登山スポーツの啓蒙を行った。また、

1ドル360円の昭和43年に佐々木民秀氏が韓国雪岳山へ遠征した。

これは秋田県内在住者の県人としては、戦後の海外登山第1号である。以後会員はそれぞれ韓国を初めとして台湾、ネパール、パキスタン、ヨーロッパ等まだ困難な時代に次々と海外遠征を行っている。

昭和40年代前半、鈴木長光氏、佐々木義宗氏は谷川岳一の倉沢、穂高岳屏風岩、前穂高東壁、穂高滝谷へ熱心に通った。昭和41年3月一の倉沢衝立岩ダイレクトカンテルート、5月に同雲稜ルート、8月屏風岩中央壁(岐阜登高会ルート)に登り、翌日前穂高東壁右岩稜、同Dフェース、滝谷ドーム正面壁、同北壁を1日で登る。翌42年8月には、屏風岩東壁雲稜ルートから登攀開始、前穂高四峰正面壁北条・新村ルート、同東壁右岩稜、右岩稜上部でビパーク後、翌日同壁Dフェース、滝谷第一尾根を登攀する等、困難なルートの継続登攀に積極的に取り組み、当時高く評価された記録を残している。

創立当時より発行している会報AACは、紆余曲折を経ながらも2001年6月で475号を数えた。節目に発行する会誌「アキタ・アルパイン」と共に、会員の活動状況と会の歴史をつないでいくものである。昭和46年発刊の第5号はエバニュー賞を、昭和56年発刊の第7号は当時の太平山地を特集し、第19回岳人会報賞の準優勝に輝いている。昭和40年代には会員120名を数え、東北でも有数の大きな会であったが、大衆登山と車社会の現在会員は50数名となってしまった。中高年が多いのは免れないが、創立当時からの登ることのみに目的を持ちモットーに、殆んどの会員が現役で山に登って

いる。

冬山からクライミング、沢登り、藪山、尾根歩きのハイキング、海外登山まで行動範囲は広い。そして最近では山岳連盟のクライミングウォールでフリークライミングの普及にも当たっている。

昭和50年代からはじまった年末のザイル祭、会山行(平成13年は10回)、毎月の例会等を恒例としてそれぞれ活動をしている。

新ルート開発の時代を経て、車社会であっさり山頂へ登ってしまう登山ブームの今、山はどこもオーバーユースで、人間が自然破壊をするという新たな問題も引き起こしている。自然豊かな秋田の山と言われるが、本当にそうでしょうか？最近、奥山藪山を登山して目につくことは、至る所に傷が残っている秋田の山の痛々しさである。創立当時の心意気に帰り、夢は大きく世界の山々にも目を向けると同時に、21世紀次世代を担う若者達に、

本当の豊かな秋田の山々を引き継ぐためにも、アキタ・アルパイン・クラブは山岳会活動を続けていくものである。

(文責 福田光子)



S27年6月秋田営林局務沢事業所前にて
創立後間もなく



2000年11月 50周年祝賀会にて



昭和38年2月 手形山青年の家で秋田県遭難
対策委員会冬山遭難救助講習会